

南スーダン 国際機関日本人職員 座談会

開催日時：2017年9月9日

場所：Notos Resuatrant, Juba

参加者プロフィール（肩書きはいずれも2017年9月9日現在）：

西谷 佳純さん（国連南スーダンミッション ジェンダー部門チーフ・シニアジェンダー
アドバイザー）

近藤 篤史さん（国連WFP 緊急対応ユニット長）

真嶋 五月さん（国際移住機関 水衛生事業サポート及び評価・モニタリング担当）

真嶋 忍さん（国連プロジェクトサービス機関 河川交通有効活用調査プロジェクトマネ
ージャー）

紀谷 昌彦在南スーダン日本国特命全権大使

+++++

紀谷大使：私もこれまでナイジェリア、米国、バングラデシュ、ベルギーと様々な国で働いてきましたが、南スーダンの日本人国連職員の皆さんは本当に平和構築、開発、人道支援の実現に大きく寄与していただいていると思います。

司会：まずはそんな皆さんの日常とといいますか、どのような環境で暮らしているのかについて、南スーダンにいない方々は全く想像が付かないと思うので、一言ずつ頂ければ。

<普段はどんな暮らしぶり？>

西谷さん：私たち国連南スーダンミッション（UNMISS: United Nations Mission in South Sudan）の職員は、国連施設内部で生活しています。住居は普通のアパートのような感じで、ベッドスペースに加えて、バス・トイレ、キッチンとリビングスペースが内部にあります。外はベランダがあります。ベランダではアボカドの水耕栽培をしたり、加えて同じ UNMISS の職員をお招きしてパーティーをしたりもします。天ぷらや巻き寿司を作ると喜ばれて、私の巻き寿司は UNMISS 中で有名なんですよ（笑）。



西谷 佳純さん
UNMISS ジェンダー部門

近藤さん：私も WFP の施設内部で生活しています。一方で、契約形態によって職員は住む場所がコンパウンド内か、ジュベル・ロッジか異なります。住居はだいたい西谷さんがおっしゃったのと同じです。食事は同じコンパウンド内のレストランで済ませていますね。



真嶋五月さん：国際移住機関 (IOM) は、事務所内の宿舎と市内にある宿舎があり、私は他の IOM 職員と一緒に市内の宿舎に住んでいます。普段は、同じ宿舎に住む同僚と交代でご飯を作り、自炊したものを他の IOM 職員と分担して、簡単なものを作って、食べることも多いです。

真嶋忍さん：私は西谷さんと同じ、ジュバ郊外の国連施設内部で生活しています。西谷さんと異なり、私はコンテナ住まいですが。職場はジュバ市内にあり、車で 30 分ほどかけて毎日移動しています。不便だし途中の交通事故に遭うリスクも考慮して、現在住居のある国連施設内部に新しい事務所を建設中です。食事は事務所にビュッフェがあるので、普段はそこを利用しています。

司会：休暇も含めた、ライフワークバランスについてはどうですか？休暇は思ったように取得できないというケースも時々聞きますが・・・

西谷さん：確かに、体調が悪くなった部下など他の職員のバックアップだとか、業務のことを考えると、なかなか希望している通りに休暇を取得できないことも多いですね。

紀谷大使：そのあたり、日本人特有のまじめさなのでしょうか (笑)。

近藤さん：私たちも、だいたい通常の 6 週間に 1 度のスケジュールで取るようにしています。一方で、長期にわたってスケジュール通りの休暇取得が難しいような場合は、上司に掛け合い、人員増をお願いすることもありますね。

真嶋五月さん：私たち IOM でも、お互いが業務をカバーし合って、可能な限り 6 週間に一

度の休暇サイクルを守るようにしています。途中に出張などが入ると 6 週間はあっという間ではありますが、6 週間目が近づくごとに疲れが強くなるので、やはり適切な休暇取得は必要だなと感じています。



真嶋 忍さん
国連プロジェクトサービス機関

真嶋忍さん：私たち国連プロジェクトサービス機関（UNOPS）は他の国連機関と休暇の体勢が異なっていて、月の有給休暇が多い代わりに、いわゆる健康管理休暇（R&R）がないんです。また、他の方のように旅費の補助もありません。ですから結局休暇に行く頻度は、他の国連職員の皆さんと比べて少ないと思います。さらに、うちの事務所は結構体育会系なので、休暇と言っても結局「リモート・ワーク」「ワーク・フロム・ホーム」扱いされ、メールが容赦なく送られてきてなんだかんだ仕事やっていることも多いですね。

<仕事の意義－南スーダンの人々の暮らしをよくするために－>

司会：ありがとうございます。なかなか休暇が取れなかったり、『休暇』という名目ですが実際は休めないということも多いのですね・・・。

次にお伺いしたいのは皆さんの日常業務について。「南スーダンで働く」ということ自体、この国の歴史、政情、人道状況などからかなり特殊だと思いますが、皆さんの通常業務が、どのように南スーダンの平和構築・人道支援・開発協力につながっているとお考えですか？

西谷さん：私たち UNMISS ジェンダー部門の活動は、国連安保理決議女性・平和・安全保障 1325 号の実施を当ミッションのマンデート 2327 内で行うことです。南スーダンでは、紛争に起因する女性に対する暴力の問題もありますが、社会的慣習による差別や暴力も多いのです。そんな中、私達の主な活動は、少しでもコミュニティにおいて、女性が平和に関する意思決定の過程に参加できるよう支援することです。女性が中心となってコミュニティ間の紛争を解決しようとする取組は、実は、たくさんあるのですが、まだまだ市民社会全体における女性の参加度合いは低く、仮に総選挙が来年実現されたとした場合、女性の参加が十分に実現できないままの選挙になる確率は極めて高いです。そのためにも、現在実施中のプログラム「Support for Women Peacebuilders' Network」への支援のような、女性を中心アクターとした平和構築、事務総長特別代表との対話プロセスの支援は重要だと思っています。

近藤さん：私の仕事は、わかりやすく言えば「食糧を配る」のが仕事です。私が統括する緊急対応ユニットは、実は南スーダン特有の組織で、緊急に食糧配布が必要だが陸路・水路での食糧の輸送が不可能な地域に飛行機から食糧を投下（Air drop）するオペレーションの統括を行っています。もちろんただ落とすだけではなく、食用油など普通に落とすと包装が破れてしまうものはパラシュートを付けて落としますし、落とした先に「ドロップゾーン・コーディネーター」という人がいて、落下が予定されている地域に人や家畜が立ち入りしないよう確認したり、落下させた食糧を集めて、食糧配布が行われるまで保管する役目を担っています。



近藤 篤史さん
国連WFP

ただ、2013年12月に南スーダンの政治情勢が一気に悪化するまでは、治安の問題が存在せず陸路輸送を行っても問題なかったため、わざわざこのような高価な食糧輸送は行いませんでした。その意味で、私の所属しているユニットが存続し続けるイコール南スーダンが危険であり続けるということなので、逆説的ではありますが、今働いているユニットが少しでも早く無くなってほしいと願っています。なお、今年のWFPの食糧支援の35%がエアドロップを通じて行われています。

真嶋五月さん：私が所属している水衛生事業部の活動は、三つの柱があります。一つ目は、国内避難民が生活するベンティウ、ワウ、マラカルのPoC（文民保護区）において、安全な水の供給、トイレ、シャワーなどの衛生施設の設置と維持管理、浄水、下水処理、水衛生啓発活動を実施しています。二つ目は、各地で感染症の発生、国内避難民が流出した際には、緊急チームを派遣し、緊急ニーズ調査の結果に応じて、安全な水の供給、バケツや家庭用簡易浄水剤など水衛生に関する生活必需物資の配布、井戸の修復などを行っています。三つ目は、水衛生クラスターと連携して、水衛生に関する機材物資を事前に調達を行い、緊急時に水衛生事業を展開する国連機関やNGOに配布するコアパイプラインという活動を行っています。この部署での私自身の役割は、そうした活動の実施をジュバからサポートしている他、モニタリング&評価業務として、活動の成果をはかる指標、データ収集の精査し、報告書を作成しています。

真嶋忍さん：私は今、ナイル川の河川交通を少しでも効率よくするために、既存のはしけ（舁）を使った移動手段の効率化の調査プロジェクトを担当しています。近藤さんからも説明があったとおり、現在人道支援物資は、道路の状況などにより陸路での輸送が難しいことから非常に費用のかかる空輸による物資輸送を強いられています。人命救助の観点からやむを得ない決断とはいえ、河川交通を有効活用できればコストをおさえつつ物資を輸

送することができます。また、この支援は、単に人道支援物資の輸送効率を上げるのみでなく、将来的には輸送手段のひとつとして南スーダンの運輸事情と経済の発展に寄与すると考えられることから南スーダンにおける開発支援の一環にもなり、日本政府が支援している「人道と開発の連携」をわかりやすく示している案件だと思えます。現在中断していますが、JICA がジュバの河川港拡張プロジェクトを担当しているので、いずれ UNOPS としてはナイル川上流のマラカル港の修復を日本の支援の元を実現することで相乗効果を図りたいと考えています。



紀谷 昌彦在南スーダン日本
国特命全権大使

紀谷大使：ありがとうございます。日本の支援は、昔からハード部門に加えて「制度作り」を含んだソフト部門も実施していくことが特徴です。今回のはしけの効率改善が運輸省の能力強化にもつながればベストだと思います。関連して言えば、我が国は国民対話プロセスの支援、また UNDP をパートナーとして行っている「回復と安定化」支援などの実施を通じて、南スーダンでの平和構築、人道支援、開発協力を幅広く実施しています。

<南スーダンならではのチャレンジとやりがい>

司会：ありがとうございます。南スーダンで働くというのも、なかなか日本で暮らしている皆様には想像もできない制約などもあり、大変だとは思いますが、その分やりがいを大きく感じることもあるのではないのでしょうか。

近藤さん：困難さの一例がこの国の WFP 事務所にある「アクセス・ユニット」だと思います。この部門も緊急対応ユニット同様、私が今まで働いたチャド、スーダン、エチオピアには存在しない部門で、いわゆる「人道アクセス」の問題を扱います。人道アクセス問題とは、人道支援物資が支援活動を行われなければならない場所になかなか到達しない問題で、その理由は雨による道路状況の悪化などやむを得ない理由の場合もありますが、時には援助対象地域を支配している政府・反政府勢力から政治的な理由で許可がもらえないケースもあります。また逆に、支援を予定していない地域で急に「いついつまでに食糧支援を実施してほしい」という要望が来ることもあります。WFP としても、前回の配布時期や栄養状態の全国調査などに基づいて配布スケジュールを決めているので、そういった要望には応えられないのですが。あとはやはり治安上の問題が大きいですね。Air drop の場合、ドロップゾーンของทีมを現地に派遣しなければならないので、そのチームを送り込んで

も大丈夫な治安状況であると、WFP 及び国連の安全部門双方が同意する必要があります。

真嶋五月さん：日々様々な困難と課題があがってきますが、とてもやりがいを感じています。先日ワウに出張に行きましたが、IOM 水衛生事業を実施している国連文民保護区や一時避難所に行き、裨益者からと会って、話を聞いていくなかで、私たちの活動が裨益者に届いていることが確認でき、仕事への意欲がさらにわきました。

西谷さん：私達のジェンダー主流化プログラムは、基本的に UNMISS 以外の人というより UNMISS の軍事部門、国連警察、文民部門への助言・技術支援・能力開発を主な目的としているので、裨益者と直接話したりする機会が少ないのが残念ですが、それでも 1 年間の仕事が終わった後、仕事の成果を分析していると、裨益者の男女比が、ほぼ半々にまで上がっていたことを確認でき、とてもうれしかったですね。また、年末に「ジェンダー暴力撤廃のための 16 日間の啓発活動期間¹」という期間がありますが、去年は、スマレ政治担当副事務総長代理、UNMISS 軍司令官、チーフオブスタッフにも協力頂き、総計 8,000 人以上の外部利益者を対象に、女性に対する性暴力の撤廃を訴えかけることができました。あと、今回の国連安保理向けの事務総長報告書は、政務部の邦人職員の女性と協力して、各セクションに働きかけたため、ジェンダーの視点がしっかり盛り込まれています。具体的には、ジェンダー関連の現状報告を 3 パラグラフとミッション要員における女性の比率を原案に入れていただきました。これからの決裁プロセスで削られてしまうかもしれませんが（笑）、もし文言が残れば、安保理で報告される文章ですので、これはすごい効果だと思います。

真嶋忍さん：私の場合も西谷さんと同じく、なかなか裨益者の方と直接接する機会が無いのが少し残念です。私の場合、前職は日本の NGO で、日常業務で裨益者と接する機会があったので、なおさらです。

<国際機関で働く上で、日本人としての良さとは？>

紀谷大使：ありがとうございます。今後、皆さんの後続くであろう人たちを励ます意味で（笑）、よければ皆さんが今まで感じた、「こういうところが日本人の美質として、国際色豊かな国連の職場で働く上で生きた」という点はありますか？

¹ 16 days of Activism against Gender-Based Violence。11 月 25 日の「女性に対する差別・暴力撤廃デー」から 12 月 10 日の「世界人権デー」までの期間のこと。毎年さまざまなジェンダーに対する暴力・差別への反対・是正キャンペーンが行われる。

西谷さん：そうですね。今後ますますアフリカに興味を持つ方が今より増えてほしいと個人的に思います。そのためには「オピニオン・リーダー」的な方が出てくるのが望ましいと思います。

紀谷大使：そういう西谷さんこそ、ぜひオピニオン・リーダーに！（笑）

西谷さん：（笑）。あとは、やはりアジア的性質と言いますか、「私は欧米人のアドバイザーのやり方とは違うな」と思うことがあります。彼らはどちらかというところ「統率する」アプローチでアドバイザーとしての業務に臨むことが多いのですが、私はどちらかというところ「励ます」「支援する」アプローチです。前者のアプローチで「ああしろこうしろ」的な仕事をしていては、かえって成果が上がらないのではないかと感じることもあります。つい最近、紛争下の性暴力撤廃のワーキンググループで、大統領府の方と話すことがあったのですが、一方的に外国人として「とにかく性暴力違反は、絶対に許しませんよ」というようなやり方ではなく、「私たち UNMISS も、実は性暴力の予防をととても厳しくミッション内で呼びかけています。一緒に双方、学びあっていきましょう」というメッセージを送ることで、ずいぶんと大統領府の方々にも私たちの仕事が受け入れてもらいやすくなったと実感しています。

近藤さん：率直な話、国連に入って、今まで接した国連職員の日本人の方々を見ると、いわゆる「普通の日本人」の方ってあんまり見かけないんですね。少し変わっている人が多い。特定の方を指して言っているわけではありませんが（一同爆笑）。帰国子女だったり、日本で生まれていない人の割合が圧倒的に多いように感じます。そんな中で、「日本的なアプローチ」としてあえて言うならば、あんまり政策というかポリシーを前面に「バーン」と打ち出していく形ではなく、根回しを通じて物事を動かしていく方が多い気はします。その意味で、欧米人とは異なるマネージメント・スタイルを使うことで、付加価値を日本人は出していけるのではないのでしょうか。とはいえ、国連はかなり特殊な職場でもあるので、いわゆる「普通の日本人」がどうしても働きたいと思われるなら、その方は今まで積み上げてきたものを一度完全にリセットする覚悟が求められるでしょうね。家族や恋人が日本にいる方も多いでしょうし、無理に国連で働くことだけを考えず、あくまで選択肢の一つとしてとらえてはどうでしょうか。無理に自分の働き方のスタイルを変えて欧米人の真似をすれば、合わないマネージメント・スタイルで結局は評価されなくなってしまう危険もあるので、無理に日本人らしさを手放す必要はないと思います。

真嶋五月さん：南スーダン治安が不安定で、課題の多い国ではありますが、南スーダンの民族、文化はとても多様なので、こちらに住んでいて、日々発見があり、とても楽しいです。日本国内では、治安が悪いイメージが先行し、この国の魅力が十分に伝わっていない

いのがとても残念です。例えば、ビーズなど民芸品も素敵なものがありますし、南スーダンの女性は服装や髪型にこだわるとてもおしゃれさんだったりします。ハチミツや香りの良いシアバター²も良質のものがありますし、そうした「等身大の南スーダン」についても、知ってもらえると嬉しいです。

紀谷大使：ハチミツは、アフリカ地域からのハチミツを日本に輸出するビジネスを展開されている方がいて、その方の尽力で日本における「Made in South Sudan」輸出第一号になりました。もっともこのような、メッセージ性も込めた輸出やビジネス活動が広がっていけばいいなと応援しています。

真嶋忍さん：私は、実は近藤さんとは違う意見で、以外と普通の日本人も国連職員として活躍しているなという印象です。欧米っぽくない、いい意味で「普通」の日本人もたくさんいるなと思いました。ただ、「United Nations」とはいえ、国連は実際には欧米中心的なシステムなので、その中で苦勞して、いわゆる「キャラの立った」性格になっていく人も見受けました。私自身も、日本への一時帰国後、南スーダンに再渡航する時は頭の切り替えが必要だったりします。この欧米中心な、あたかも「アウェー」的な感覚の国連を、本当の意味の United Nations に変えて、誰もが「ホーム」的な感覚で仕事をしていくためには、もっとアジア人のプレゼンスが増えていくことが必要だと思います。また、日本人として得をしているなと思ったことは私もあって、先日も河川交通システムの調査の許可をもらいに南スーダン政府の国防省に行きましたが、難しい説明もいらず、「何人だ？日本人か？」「日本人です」のやりとりの後ですんなりと申請することができました。日本の長年の貢献があってこそその良いイメージが、このように業務の実施を容易にしていると思うので、そのイメージを更に広げて行ければいいと思います。

<終わりに>

紀谷大使：皆さんどうもお時間を頂きましてありがとうございました。私は実はあと 10 日で離任するのですが、邦人職員の増強に関しての業務も東京で担当したことがあり、とても参考になりました。日本の良さ、日本人の素晴らしさを世界に広げていく上で国連職員としてより多くの方が働いていただければ、非常に大きな効果があると思います。「アウェー」的にどうしても感じてしまいがちな国連という職場を、皆さんの力でぜひ「ホーム」に変えていってください。一緒に頑張っていきましょう。

(了)

² シアバター：シアバターノキの種子の胚から得られる植物性脂肪で、保湿クリームなどとして愛用されている。参考ホームページ<<http://www.lululife-sheabutter.com/>>